

2022.10.8
@渋谷キャンパス

国文学科では、本年度「生誕130年記念展示・公開講座 知られざる佐藤春夫の軌跡 —不滅の光芒—」と題して、公開講座と関連資料の展示を行いました。具体的には、以下のような内容です。



■10月8日(土)に実践女子大学・実践女子大学短期大学部 公開講座(国文学科)「美の冒険者・佐藤春夫の挑戦」と題し、本学渋谷キャンパスにおいて公開講座を開催しました。

13:00より、佐藤春夫友人御令孫で歌手の東哲一郎氏と演奏者による、春夫の詩に東氏が曲をつけて歌うコンサートが開かれました。

特に春夫の代表作「秋刀魚の歌」については、「別にサンバとサンマを掛けているわけではありませんが」と言いつつ、サンバ調のノリの良いメロディと軽快な歌には、思わず誰もが踊りだしてしまいそうでした。

14:30からは、河野龍也先生(現東京大学准教授・本学客員研究員)による講演、そして、今回の講座の目玉でもある、佐藤春夫御令孫のお話をお伺いしました。



3名の外部講師の方々(高橋百百子氏・竹田長男氏・竹田有多子氏)に河野先生がインタビューする形で、春夫に関する興味深いお話をお聞きすることができました。懐かしさ溢れるお話しぶりに祖父への限りない愛情が感じられ、そうした経験を持つ方々と同じ空間にいるということが貴重な体験となりました。インタビューの途中では、春夫がお三方の幼い頃について書いた随筆や詩の朗読をささみ、これらの作品に関するエピソードなどもご披露され、数十年の時を超えた幼い頃の御令孫のお姿が一瞬垣間見えたような講演でした。

最後に、本年度本学と協定を結んだ佐藤春夫記念館の館長である辻本雄一氏による記念館のご案内とご講演をお聞きして、講座は無事終了いたしました。

コロナ禍ということもあり、定員を限った講座となりましたが、多くの方々から事前申し込みをいただき、盛況のうちに幕を閉じることができました。

■9月26日(月)~10月15日(土) 「新出秘蔵資料展」として、実践女子大学香雪記念資料館において、佐藤春夫関係の新出秘蔵資料を含む貴重な資料を展示いたしました。それらの中には、少年時代の水彩図案(和歌山県新宮市の佐藤春夫記念館からはるばる借用)・春夫の代表作「田園の憂鬱」の未公開挿絵・芥川龍之介の絵入り書簡などが含

まれています。さらに、太宰治の春夫宛書簡もあります。この書簡は、太宰が春夫に宛てた芥川賞を懇願する長文の手紙です。それを2015年当時、国文学科の同僚だった河野先生が発見し、ニュースなどで大々的に報じられたことを覚えていらっしゃる方もおいでかと思います。更に今回は、芥川賞騒ぎに関連して、春夫に送っていた謝罪の手紙が、同じく河野先生によって発見されました。この手紙は、存在すら知られていなかった「超」がつく「お宝」で、再び

ニュースなどで取り上げられ話題となりました。なお、これらの展示物は、春夫の訳詩集『車塵集』の版元で、梶井基次郎『檸檬』の草稿紹介でも国文学科がお世話になった武蔵野書院より出版されております(河野龍也編『生誕130年記念 知られざる佐藤春夫の軌跡—秘蔵資料をよむ—』武蔵野書院2022年10月刊 1,800円+税)。



美の冒険者・佐藤春夫の挑戦

文学部国文学科
担当責任者

教授 福島健伸
教授 棚田輝嘉

学外講師

高橋百百子氏
竹田長男氏
竹田有多子氏
辻本雄一氏

コンサート

東哲一郎氏

学内講師

東京大学准教授
実践女子大学客員研究員
河野龍也

参加人数：73名